

彩の歳時記

平成二十一年 九月

秋の野に咲ける 秋萩秋風に靡ける上に 秋の露置きけり

大友家持【718～785】

「秋の野に咲いている秋萩が、秋風に靡いている。そしてその枝の上に秋の露が置いている」

秋を四度、詠み込むことにより、靡(なび)き、撓(たむ)む萩の風趣の美しさが増幅されています。

この歌は生け花に於ける役枝(骨格を決める枝)に挿入され、靡く枝を「風きよ」、撓む枝を「露もち」と言い、花の姿を表す大切な要素になっています。

萩は古株から芽生える「生(は)え木」の意味から名付けられ、生命を称える花として万葉人に愛され「万葉集」に最も多く収められています。

墨田区の向島百花園では、九月十二日(土)から中秋の名月を眺める「月見の会」可憐な「萩のトンネル」が美しい「萩まつり」が開催されます。

九月の異称

長月ながつき 夜長月(よながつき)の略。

あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む

柿本人麻呂【660から720年頃】

九月の暦

一日 二百十日【雑節】立春から二百十日目。野分(台風)の襲来する時期として恐れられた。

防災の日 1923(大正十二年)のこの日、午前十一時五十八分、関東大震災が発生。M7.9.

近年、各地に地震が多く発生、防災体制も強化されている。

七日

白露はくろ【二十四節気】陰気ようやく重なりて露にこりて白色となれば也(暦便覧)

鏡花忌

小説家・戯曲作家、泉鏡花【1873～1939】の忌日。幻想文学の先駆者



としても評価が高い。石川県金沢市生まれ。尾崎紅葉に師事。代表作『婦系図』『天守物語』『夜叉が池』など。来年の四月公演を最後に建て替えられる歌舞伎座の「七月さよなら公演」は鏡花作の「海神別荘」と「天守物語」を坂東玉三郎、市川海老蔵ら人気役者が演じた。

九日

重陽の節句

奇数の重なる月日は陽の気が強すぎるため不吉とされたが、後、吉祥とする考えに転じ、祝い事となった。菊の節句と呼ばれ、菊の花に置き綿をして露をしみ込ませ、身を清める。

十九日

子規忌

俳人・正岡子規【1867～1902】の忌日。愛媛県松山市生まれ、「歌よみに与ふる書」を

著し、写生よる文章革新を試み、近代文学史上に大きな足跡を残した。現代俳句・短歌の先駆者的存在。晩年は台東区根岸に子規庵を結び、弟子たちを育成した。

糸瓜咲て痰のつまりし仏かな などから、糸瓜(へちま)忌とも。

自画像↓



二十一日 敬老の日【第三月曜日】 老人を敬愛し、長寿を祝う日。
二十二日 国民の休日 祝日法の改正により1985(昭和の60)年から設けられた。
二十三日 秋分の日【二十四節気・秋分】秋彼岸(二十日～二十六日)の中日。

九月の歌

秋桜【こすもす】

詞・曲 きだまきつ【1952～】

昭和五十二(1977)年、山口百恵【1959～】の歌でヒット。嫁ぐ娘が母を想う内容の曲で、結婚式での定番ソングのひとつ。コスモスは主に秋に咲き花弁が桜に似ているところからの和名は秋桜(あきぎくら)。

コスモス(Cosmos)の語源はギリシャ語で「秩序・飾り・美しい」の意味。

コスモスは花びらが整然と並ぶ様子に由来、また、星がきれいにそろった宇宙のこともCOSMOSと呼ぶ。

東京周辺の見どころは、江戸川区の小岩菖蒲園(最寄駅は京成線江戸川)

昭和記念公園(立川の大規模公園)。花見頃九月中旬～十月上旬。

薄紅のコスモスが秋の日の
何気ない陽だまりに揺れている
この頃 涙もろくなった母が
庭先でひとつ 咳をする
縁側でアルバムを開いては
私の幼い日の思い出を
何度も同じ話 繰り返す
独り言みたいに 小さな声
こんな小春日和の穏やかな日は
あなたの優しさが沁みてる
明日嫁ぐ私に苦勞はしても
笑い話に時が変えるよ
心配要らないと笑った